

進捗状況の概要

【事業の実施、達成・進捗状況の評価体制】

平成 28 年 1 月 27 日の「キックオフシンポジウム」開催にあわせ、事業協働機関で構成する協議の場である「地方創生雇用創出・若者定着プラットフォーム」を開催し、各プログラムの教育内容や募集、実施に関する期首の検討を行った。

本事業の達成・進捗状況の評価としては、2 月 17 日に「外部評価委員会」を開催し、評価を得ている。この外部評価委員会は大学 COC 事業において設置された外部評価委員会を、COC+も含めて評価を行う委員会として改組したものであり、あらたに雇用に関する専門家や沖縄県内の市町村を含めた関係機関からの専門家を委員会のメンバーに加えた評価体制としている。

【事業協働地域内外への情報提供の方法・体制】

本事業の意義を発信するため、1 月 27 日に「キックオフシンポジウム」を開催し、県内外からの参加を得た。

本事業における実施プログラムに関しては、事業ホームページを開設し、プログラム内容、成績評価法、目指すべき学生の人材像等の情報の提供を行っている。さらに、Facebook を活用してプログラム情報や体験談等広く学生や一般にも周知を行っている。

また、事業パンフレットを作成し、本事業について学内及び、ステークホルダー等関係機関との情報共有に活用している。さらに県内の地方新聞 2 紙（沖縄タイムス、琉球新報）において事業広告を掲載（平成 28 年 3 月 26 日）し、一般への情報発信を行った。

【事業協働地域における地域ニーズの把握】

事業協働地域においては、離島や沖縄本島北部地域のように特に雇用環境の厳しい地域があり、地域の実情に応じたきめ細やかな対応が必要となる。このため、本事業では当初計画で、石垣市、宮古島市、久米島町、国頭村、大宜味村を重点的に取り組む地域として位置づけている。平成 27 年度においては、これらの 5 地域において事業協働機関（公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO 法人まちなか研究所わくわく）と連携し「地域円卓会議」を開催し（2/4 大宜味村、2/24 国頭村、3/3 久米島町、3/10 石垣市、3/11 宮古島市）、地域ニーズの掘り起こしを行ったうえで雇用創出・若者の地域定着に関する取り組みの方向性を明らかにし、個別の連携協定の締結につなげることとしている。

また、事業協働機関と連携し、「UIJ ターン調査」（株式会社ルーツ）、「地域ニーズ調査」（一般社団法人 Enactus JAPAN）を実施し、地域内での UIJ ターンの現状及び課題、地域産業創出ニーズを明らかにし、整理を行った。

【事業協働地域における教育プログラムの実施】

平成 27 年度後学期において地域志向科目として新たに「地域課題フィールドワーク演習」を開講した。受講生は前日の地域円卓会議に合わせ、地域での現地調査を行った。演習にあたっては、事業協働機関（有限会社オーシャン・トゥエンティワン）とも連携した事前・事後研修を実施し、学修の効果最大化を図っている。

3 月 17 日には「教育プログラム開発委員会」を開催し、プログラムに関する意見を集約している。

地域志向型リーダーを育成するための教育プログラムとして、「現代沖縄の地域振興」の開講に向けた準備、地域志向科目の全学必修化に向けた学内調整を行った。

【実施体制の整備】

本学では、遠隔教育プログラムの開発・実施に向け、サテライトシステムを活用したサテライトキャンパスを設置し、公開講座や出前講座等を実施しているが、平成 27 年度には COC+参加校である名桜大学、重点地域である国頭村及び大宜味村においてサテライトシステムの導入を行った。

また、実施体制の整備として、COC+大学において特命准教授 1 名と事務補佐員 2 名を、COC+参加校において COC+担当の准教授 1 名と事務補佐員 1 名を新たに雇用した。

（COC+大学名：琉球大学、事業名：新たな地域社会を創造する「未来叶い（ミライイ）」プロジェクト）